

真声会 会報

第 49 号

2009年12月1日
発行

発行所
京都市立芸術大学音楽学部同窓会
真声会
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13番地の6
京都市立芸術大学音楽学部内 TEL (075) 334-2222
同窓会事務局 TEL (080) 6185-4494

総 会 報 告

夏真っ盛りの7月19日(日)、からすま京都ホテルにおいて潮江宏三学長、学生自治会副会長林みどりさん(2回生)のオブザーバー出席を頂き、総会が開催されました。

総会は、会員総数2927名中、出席者数17名・委任状総数316通で成立しました。議題は、以下の通りです。

1. 2007年度・08年度事業報告について
2. 2008年度会計報告、並びに監査報告について
3. 2009年度予算案について
4. その他



総会に引き続き、潮江学長の特別講演が行われました。来年、創立130周年を迎える京都市立芸術大学美術学部の前身、京都画学校以来の京都画壇の歴史と現在までの京都芸大出身者関係者の軌跡が数々のスライドを用いながら、鮮やかにひもとかれ、歴史の重みを感じ深く興味をかき立てられたひとときでした。

続いて、オブザーバーの二人も同席いただき、懇親会がもたれました。折しも中部支部の立ち上げにご尽力されている中島百合子さん(19期作曲)も参加され、おいしい料理と参加者の楽しいスピーチで、なごやかな歓談のひとときを楽しみました。

決算報告と予算案

京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」 2008年度 会計報告 (2008年4月1日~2009年3月31日)

収 入			支 出		
内容	内訳金額	合計金額	内容	内訳金額	合計金額
前年度繰越金		24,059,303	援助金		
今年度会費納入			支部援助金	795,000	
入会金(74名)	1,110,000		芸大演奏旅行	100,000	
会費	3,855,000	4,965,000	コール真声会	26,000	
受取利息			芸大定期演奏会	50,000	971,000
郵便貯金	6,112		印刷費		
銀行預金	24,176	30,288	大光社(名簿)	2,013,227	
雑収入		37,200	大光社(会報、その他)	942,669	2,955,896
			通信費		
			大光社分	609,260	
			その他	30,005	639,265
			会議費		
			役員会、理事会	67,500	
			その他	45,033	112,533
			交通費		
			役員会、理事会	110,240	
			その他	44,380	154,620
			人件費		
			事務費	38,000	
			名簿管理費	16,000	
			その他	0	54,000
			備品購入費	0	0
			雑費	0	10,000
			消耗品	10,251	
			手数料	160	
			慶弔費	15,833	
			京都市芸術文化協会年会費	20,000	
			入会金二重払い分払い戻し	0	
			会費二重引落し分払い戻し	0	
			銀行手数料(南都銀行)	102,952	
			今年度支出合計		5,046,510
			次期繰越金		
			郵便貯金及び銀行預金	24,045,281	
			現金	0	24,045,281
総 計		29,091,791	総 計		29,091,791

京都市立芸術大学音楽学部同窓会「真声会」2009年度 予算案

内 容	支 出			
	2007年度決算	2008年度予算	2008年度決算	2009年度予算(案)
援助費	873,000	946,000	971,000	1,036,000
内訳				
支部援助金	747,000	770,000	795,000	860,000
芸大演奏旅行	100,000	100,000	100,000	100,000
コール真声会	26,000	26,000	26,000	26,000
芸大定期演奏会	—	50,000	50,000	50,000
印刷費	1,017,075	2,500,000	2,955,896	1,500,000
内訳				
大光社(会報その他)	1,017,075	2,500,000	942,669	1,000,000
大光社(名簿)	—	—	2,013,227	—
会員証	—	—	—	500,000
通信費	763,941	1,860,000	639,265	980,000
内訳				
大光社分	671,614	1,800,000	609,260	900,000
同窓会室電話代	—	—	—	30,000
その他	92,327	60,000	30,005	50,000
会議費	382,256	250,000	112,533	220,000
内訳				
総会費	124,813	—	—	150,000
役員会、理事会	—	—	67,500	20,000
その他	257,443	250,000	45,033	50,000
交通費	109,220	130,000	154,620	150,000
内訳				
役員会、理事会	—	—	110,240	100,000
その他会議	—	—	44,380	50,000
人件費	80,000	130,000	54,000	250,000
内訳				
同窓会室事務費	—	—	38,000	250,000
その他	7,000	5,000	0	0
名簿管理費	23,000	20,000	16,000	—
芸大事務委託費	50,000	—	—	—
備品購入費	167,000	0	0	0
雑費	1,200	10,000	10,000	10,000
消耗品	10,259	10,000	10,251	10,000
手数料(振込等)	900	1,000	160	1,000
慶弔費	12,662	10,000	15,833	10,000
入会金二重払い分払い戻し	15,000	0	0	0
会費二重引落し分払い戻し	0	0	0	0
銀行手数料(南都銀行)	102,952	110,000	102,952	110,000
京都市芸術文化協会年会費	0	20,200	20,000	10,000
予備費	—	—	—	100,000
小 計	3,535,465	5,977,200	5,046,510	4,387,000
次期繰越金	236,086	—	—	—
不足金	—	1,782,200	14,022	7,000
合 計	3,771,551	4,195,000	5,032,488	4,380,000

財 産 目 録

種類	残高	品目	購入	価格
郵便定期貯金	5,000,000			
郵便貯金総合通帳	1,752,982			
郵便振替口座	1,519,000	NEC VALUESTAR 一式	2004年3月	
南都銀行定期預金	1,011,292	NEC Lavie 一式	2004年3月	464,646
南都銀行普通預金	9,586,798	エプソン/LP-6100	2004年3月	
三井住友銀行定期預金	2,024,312	NEC VALUESTAR 備品	2004年3月	
三井住友銀行普通預金	3,150,897	SONY VAIO 一式	2008年1月	167,000

2008年度「真声会」収支決算報告については、以上のとおりです。 2009年5月27日

会計 菊田 義典 (印) 会計 山本 千壽 (印)

以上の報告に相違ないことを認めます。

会計監査 阪田 誠康 (印) 会計監査 山本 毅 (印)

内 容	収 入			
	2007年度決算	2008年度予算	2008年度決算	2009年度予算(案)
会費納入				
入会金	1,065,000	1,050,000	1,110,000	1,050,000
会費	2,598,000	3,000,000	3,855,000	3,200,000
受取利息	—	—	—	—
郵便定期貯金満期	—	—	—	—
郵便貯金	22,458	20,000	6,112	6,000
銀行預金	20,093	20,000	24,176	24,000
(定期・普通)				
総会パーティー費	60,000	—	—	100,000
会費収入	—	—	—	—
(総会の無い年)				
広告料(大光社より(名簿に掲載分))	—	—	—	—
雑収入	6,000	—	37,200	—
合 計	3,771,551	4,090,000	5,032,488	4,380,000

内 容	会費納入内訳					
	2006年度		2007年度		2008年度	
郵便振替						
終身会費	26名	1,300,000	27名	1,350,000	47名	2,350,000
年会費	10名	30,000	13名	39,000	68名	204,000
その他	9名	93,000	2名	24,000	7名	90,000
小 計		1,423,000		1,413,000		2,644,000
銀行引落し(年会費)		1,179,000		1,182,000		1,182,000
その他		9,000		3,000		29,000
会費収入合計		2,611,000		2,598,000		3,855,000

今回の会則改正について

7月19日の総会で会則改正された全文を、今回の会報に同封し、皆様のお手元にお届けしました。

今回の会則改正の主なポイントについて以下にまとめております。現役の学生も正会員として共に活動する体制となり、70歳以上の年度の会員の年会費免除、学生会員の年会費免除が決定されています。

1. 学生会員について

- ア. **学生会員**は、**京都市立芸術大学音楽学部学生**、及び他の大学より入学した**京都市立芸術大学大学院音楽研究科院生**とする。
- イ. 学生会員総意を代表する**学生代表委員**1名を役員とする。
- ウ. 真声会役員に各期の意思を代表し連絡業務等を行う**学生年度役員**各年度2名を役員とする。
- エ. 学生代表委員及び学生年度委員の任期を1年とする。
- オ. 学生代表委員及び学生年度委員の選出を、学生会員により任意の方法で行う。

2. 委員会について

- ア. 必要に応じて臨時総会、**拡大運営委員会**を持つことができる。
- イ. **役員会**は**理事会構成委員**、**年度委員**、**学生代表委員**、及び**学生年度委員**で構成する。
- ウ. **理事会**は、**会長**、**副会長**、**理事**、**会計監査委員**、**運営委員会構成委員**、及び**支部長**で構成する。
- エ. 運営委員会は総会、役員会、理事会、及び拡大運営委員会の議決事項を執行し、本会の運営にあたる。
- オ. 役員会、理事会、運営委員会、及び拡大運営委員会（以下「役員会等」という。）において必要ある場合は、会長の承認を得て正会員及び学生会員をオブザーバーとして加えることができる。

3. 年会費について

- ア. 年度当初において、その期のすべての会員が**70歳以上となった年度の会員**は、**年会費を免除**される。
(各会員個別の年齢ではなく、卒業年度として一括認定する。)
- イ. **学生会員**は、**年会費を免除**される。

真声会総会に出席して

学生自治会副会長
二回生 弦楽専攻 林 みどり (Cb)

初めてお会いする先輩方の中に一人学生として参加しましたので、とても緊張していました。総会への出席が決まったのが間際のこと、詳細もよくわからないまま出席してしまったのですが、真声会のみなさんには笑顔で迎えていただきました。総会では、一つ一つの議題について活発に議論がなされていたことが深く印象に残っています。一方的な報告で終わるのではなく、各々が疑問や意見を出し合っていて、このよう

に活気のある会に参加したのは久しぶりのことでした。今回、私たち学生を学生会員として真声会へ迎え入れてくださることとなった経緯や、それに伴う会則の変更についても詳しく説明していただき、こちらの疑問にも丁寧に答えてくださいました。学長による特別講演では、美術に始まった京芸の歴史と人物などについてのスライドを用いたお話を聴き、普段はなかなか関わらない世界を拝見して新鮮な経験ができました。

総会へ出席したことで、真声会の幹部のみなさんが卒業生や私たち後輩のためにいろいろな活動をしてくださっていることも知ることができました。また、様々な年代の先輩方のお話を伺える稀な機会を与えていただいたと思います。この日真声会のみなさんとお会いして、世代が異なっても京芸生という繋がりは強いものであるということを実感しました。

真声会学生会員としての抱負

学生自治会会長・学生代表委員
三回生 管打楽専攻 井上 拓 (Tuba)

この度は真声会学生会員の一員になれたことをうれしく思っております。私が1回生のときは真声会というものがあるということは知っていましたが、あまり身近なものとして感じることはありませんでした。私以外の学生のほとんどもそうでした。しかし2回生で音楽学部自治会副会長になったときに真声会の役員会に参加させていただくことになり、そのとき真声会というものがどういうものか、真声会の方々がいかに我々現役生のことやこれからの京芸のことを考えてくださっているかを知ることができました。そのとき私はもっと真声会に関わっていかなければならないと思ったのであります。そして今回、真声会学生会員を設けるにあたり、学生代表委員として真声会の皆様と関わっていこうと

決心いたしました。それと同時にもっと真声会について知っていかなければならないと思うようになりました。

今後は今までよりも多く真声会と関わりを持ち、私だけではなく今回から設けた学生年度委員の人たちを筆頭にこれからの京芸がよりよいものになるように役員の方々と手を携えてやっていきたいと思っております。今はまだ真声会は学生にとって身近なものとして感じてはいないと思います。しかしできるだけ早く実感してもらえたらいいと思っております。

まだ学生会員が立ち上がったばかりで右も左もわからない状態にあります。早く学生会員として自覚が持てるようになって行きたいと感じております。また先ほどにも申した通り、まだ学生にも真声会そのものはあまり浸透していません。しかし学生委員としてゆっくりかもしれませんが浸透していってくれるように努力していきたいと思っております。まだまだ力不足のところは多々ありますが、これからもご協力、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

同窓会事務室が週2日稼働しています！

2009年11月より、音楽学部同窓会事務室が毎週2日、開室しています。美術学部と同室で、美術学部音楽学部同窓会事務室として同窓会業務を行っております。皆様、ぜひお気軽に専用電話番号にご連絡ください。本部役員が会員業務に関するお問い合わせを電話で直接にお答えいたします。

開室日：毎週月曜日・水曜日（10：00～15：00）

※年末年始、お盆、祝日及び学内立入禁止期間（入試等）は休室します。

専用電話番号 080-6185-4494

開室日以外に電話を頂いた場合、留守番電話にお名前とご連絡先を録音して頂ければ、開室時間中に同窓会事務室より連絡いたします。

会員証が発行されました！

前号でお知らせしました、会員証が発行されました。今回の会報に同封しています（2009年8月末現在、会費納入者のみ）。現在、カワイ直営店（全国）、ヤマハミュージック大阪、JEUZIA全店、旭堂楽器店で割引サービスが受けられます。詳細は同封の別紙をご覧ください。今回は、2010年4月末現在の会費納入者（新卒生も含む）に、5月発行予定の会報に同封してお送りする予定です。



創立130周年記念事業のためのご寄付をありがとうございました!



2010年に1880年の京都画学校設立より130周年を迎える京都市立芸術大学。

前回会報で創立130周年記念事業のためのご寄付を呼びかけましたところ、会員の皆様からは第1回の募金として総額938,120円(振込手数料23,020円)にも達する多大なるご寄付を頂き、まことにありがとうございました。

10月26日、大村益雄会長が潮江宏三学長を大学に訪問し、創立130周年と大学の将来にかかわるさまざまな会談とともに、会員の皆様

のご寄付が渡されました。

2010年7月3日(土)には美術学部と合同で、合同同窓会の開催が京都芸大内で予定されております。美術学部では130年にして初めての同窓会とのこと、ここに音楽学部も共に参加し、大学創立130周年をお祝いします。皆様のご支援ご協力、そしてご参加をどうかお願い申し上げます。

真声会会長による会員の皆様へ、記念事業のための第2回のご寄付をお願いする文書を同封しております。

主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。なお、ご寄付頂きました金額はその都度合算し、次回以降の寄付お願い時に、寄付募金の金額と進行状況を報告させていただきます。

真声会の、130周年記念事業に寄付等を含め全面的に京芸に協力していることに感謝して、大学側より真声会会員用に良い席を用意していただけることになりました。真声会で、12月1日(火)午前10時より受け付けます(枚数限定、先着順)。S席4000円、A席3500円を、ともに1割引で購入できます(お一人様2枚まで)。以下のメールアドレスにお名前、卒業期、公演日時、席種、枚数をお知らせください。尚、予定数に達したところで受付を終了いたします。
kyougei130_tsubakihime2010@yahoo.co.jp

音楽学部の今後の事業

大学院オペラ《椿姫》

2010年2月19日(金)午後6時30分、20日(土)午後3時、京都会館第二ホール

美術学部の今後の事業

国立京都近代美術館での美術展 2010年7月6日～8月29日

京都市立美術館での日本画を中心とした美術展 2010年9月25日～11月7日

(寄付者一覧)

1期	堀田勇	6期	田村直子	11期	小林浩子	20期	上村昇	32期	大谷正和	43期	熊澤和美
1期	大村益雄	6期	金森重裕	11期	豊住征子	20期	酒井豊子	32期	信多仁子	44期	奥野紀子
1期	玉井勻	6期	土屋栄	11期	東海眞子	20期	佐々木由紀子	32期	高橋知子	45期	定金麻衣子
1期	川口富士子	6期	白石由紀子	12期	吉川洋子	20期	高谷満廣	33期	谷野里香	45期	松尾卓郎
1期	鈴木安子	6期	山田勝美	12期	江口スミ	21期	森下洋子	33期	白水裕憲	47期	園田政美
1期	東美保子	7期	尾上玲子	13期	足立美和	21期	附田恵里子	34期	山上友佳子	院15期	高山景子
1期	吉田富美子	7期	栗原紀世子	13期	藤井高子	22期	井上まゆみ	34期	小杉恵	48期	岡山理絵
1期	西田深春	7期	安野玲子	13期	南部久仁子	22期	田中孝佳	35期	平林知子	48期	奥田聖子
1期	齋藤眞理子	7期	合田敏子	13期	松村千恵子	22期	尾崎千賀子	35期	土居知子	院16期	仙波正樹
1期	斉藤栄子	8期	今井悦子	14期	江尻美根子	22期	金丸文子	35期	橋本尚	49期	浦前華名
2期	嵯峨根和子	8期	山村紀久子	14期	中村千恵子	24期	新実悦子	35期	市原路子	49期	志村眞理子
3期	藤原三千代	8期	田中美鈴	15期	藤田叔子	25期	鈴木敦子	35期	福永圭子	49期	濱地聡美
3期	伊谷和子	8期	西村靖子	15期	田中径子	26期	三森尚子	35期	中井美内子	50期	岩城かおり
3期	板谷悠子	8期	野村紀之	15期	四方眞理子	26期	三妙睦	35期	尾崎平	50期	深井千聡
3期	横山叡子	8期	吉田温子	15期	松本眞理子	26期	大津佳子	36期	蒲原尚美	50期	井尻和喜
3期	渡辺令子	8期	植山曠野	15期	棚橋庸子	26期	大嶋義実	37期	田島貴久子	50期	野村友紀
3期	越賀和子	8期	田中洋子	15期	青谷哲也	26期	小林斉	37期	山田幸子	院19期	平野佳恵
3期	服部玲子	9期	庄田良子	16期	青木恵子	26期	片岡恭子	37期	江口恭子	52期	木田佳余
3期	岡本明子	9期	戸口祥子	16期	阪田誠康	26期	大嶋亜紀子	37期	鈴木なおみ	52期	佐々木藍子
3期	吉田実	9期	辻有紀子	16期	三宅マチ	27期	彌園友子	37期	浅井佳代	52期	安藤るり
3期	寺本正代	9期	根来順子	16期	井上和子	27期	阿部千鶴	37期	中野緑	53期	大西奈々
4期	三村光子	9期	久保見世	16期	高橋せつ子	27期	村上博美	38期	河村昌子	院21期	竹内直
4期	吉田洵子	9期	山中義子	16期	大家昭子	28期	石毛明生	38期	宮脇りり子	54期	丁子充
4期	堀眞佐子	9期	武田佳子	16期	森田佳子	28期	田村賀代子	39期	田島賢	54期	中島麻弥子
4期	石堂芙美	9期	松村富也	16期	鈴木秀代	29期	小泉夏子	39期	森川孝太郎	54期	福良千尋
5期	山本家寛	10期	占部芙美子	16期	三井ツヤ子	29期	大岡眞紀子	39期	香川恵美	院22期	溝淵悠理
5期	吉富真弓	10期	吉川奎子	17期	有川長吉	29期	蜂谷葉子	39期	前川典子		
5期	島津与外次	10期	高田悦子	17期	山本千壽	29期	上野順子	40期	石田香織		
5期	矢沢英子	10期	木下幸子	18期	橋本硬	29期	奥田千春	40期	井上隆平		
5期	大村禮子	10期	石尾光子	18期	村田育子	29期	駒田さよこ	40期	西尾由佳理		
6期	大野清子	10期	大橋寛成	18期	天野真由美	30期	黒田博	40期	藤森彩		
6期	大幸若菜	10期	中島慈子	18期	定家倫代	31期	村上栄子	40期	奈波和美		
6期	多鹿千恵子	10期	中谷幸治	18期	佐々木百合子	31期	仁科綾子	41期	小林千恵		
6期	藤田恭子	10期	小室彰子	19期	中島百合子	31期	増喜美紀	42期	井川恵		
6期	鈴木和子	10期	山田晏子	19期	樋上由紀	31期	原三千代	42期	澤井祐規子		
6期	杉山元啓	10期	堀木かをる	20期	西村孝子	32期	中村典子	42期	口村尚美		

特別会員	上村淳
特別会員	梅原猛
特別会員	香西理子
特別会員	坂井千春
特別会員	鳥井晴子
特別会員	元濱綏子

(敬称略)

4年で100人《会員だより》

作曲活動四十五年

藤原 三千代 (3期作曲)

京都大学・滋賀県立大学各名誉教授であった夫藤原悌三が二月に亡くなって半年余りがたちます。その前は入院や自宅療養等があり、私も入院したりして、作曲活動から離れて数年がたちます。それまでも私自身入院、療養に専念していた期間や一男二女の子育てで作曲活動を休んでいた時期が幾度かあります。又、学者の妻としては一番出来の悪い妻を余儀なくされていた事も事実でしょう。それでも結婚して作曲活動も何とか貫けたのはやはり夫の理解があったからだと思えます。

京都市立音楽短期大学(現芸大)を卒業して直後の五年は和声学・対位法・フーガ等の技術のみがくことに専念しました。そして結婚、次女を身ごもっている時、全日本合唱連盟と朝日新聞社主催の全日本合唱コンクールの課題曲募集に応募して、男声合唱曲《冬の夜道》が入選しました。一九六四年、二十九才の時です。全国規模のコンクールに入選したのは卒業生の中でおそらく私が初めてだったと思います。それを機会に作曲活動を続けようと心を決めました。夫や実家の親の協力を得ながら、子供が寝ている間にと、真夜中にふと飛び起きて五線紙に鉛筆を走らせたこともしばしばでした。さて前述のコンクールの課題曲ですがその年の十一月に全国大会が仙台の宮城県民会館で行われ、コンクールの一般の部で私の曲を歌ってくださった“東海メールクワイアー”という合唱団が素晴らしい合唱で一位に輝かれました。その後《冬の夜道》を含めた四曲からなる『晩夏』という男声合唱組曲を作って音楽之友社から処女出版をいたしました。京都男声合唱団という一般の合唱団が素晴らしい演奏をして下さりそれが初演となりました。その後女声合唱、混声合唱、歌曲、子供のためのピアノ曲等次々作曲して、音楽之友社から楽譜を十二冊、又友社と国際芸術連盟から併せて四枚のCDを出しています。

京都の皆様、真声会の皆様が私の曲を次々演奏して下さい、それが私の活動につながったので深く感謝しています。京都からやがて近畿東京全国へと活動は拡がり、私の曲を演奏して下さいのは大変ありがたいことです。私は今七十四才ですから四十五年の作曲活動の状況を語るのにはとても書ききれませんのでこの辺で終わりとしませんが、作曲活動と、妻と、子育てとを何とかこなしてこれたのは、世の中の皆様のおかげ以外の何物でもありません。かかわって下さった皆様に厚く御礼を申し上げて文章を閉じさせていただきます。

* * * * *

矢田部 宏 (3期作曲)

皆様お元気ですか？私の毎週の決まった予定は次の通りです。
火曜日：午後1時30分から「社交ダンス」の個人レッスンを受けに行きます。
木曜日：午前10時～11時30分「特定非営利活動(NPO)法人・日本音楽生涯学習振興協会・みんなで歌おう！楽しい童謡コーラス」の伴奏。1段楽譜のメロディーにコードネームが書かれた楽譜で、即興的にピアノ伴奏をする。2～30曲くらい。
午後：レッスン・社会人が童謡を書いたものを徹底的に直す。高校2年生のピアノと音楽鑑賞。(作曲科に行きたい)
日曜日：午前10時25分から教会で、イタリア製のリード・オルガン・「デル・マルコ」8・4・16フィート付きで奏楽。

以上が毎週決まった日程です。

その他、カラオケを歌いに行ったり、「湯～トピア」の温泉に行ったり、食事をしに少し遠くに車に乗せて貰って行ったり、地域の団体旅行に参加したり、作曲したり、オルゴール用に色んな曲を編曲したり、パソコンのブログを書いたり、メールを送ったり、と毎日忙しい日々を送っています。夜の12時以前に寝たことはありません。午前4時の時もあります。

9月22日：「日本聖公会宣教150周年記念礼拝・こぎ出せ、沖へ」に参加するため、東京に1泊して全プログラムに参加しました。1日目は午前11時から・立教大学・池袋キャンパス：米国聖公会キャサリン・ジェファーツ・ショーリ総裁主教の説教・写真展・展示ブース・コンサート・シンポジウム・カンタベリー大主教を囲んで・青年との対話・夕の礼拝・交流会。2日目は東京カテドラル聖マリア大聖堂で、司式：日本聖公会ナタナエル植松誠首座主教、説教：ローワン・ウィリアムズ・カンタベリー大主教、大聖堂に入りきれないほどの人の参加による「日本聖公会・宣教150周年記念礼拝」。

感動的な2日間を過ごしました。東京の会場を午後4時に出て、9時に家に帰り、すぐにブログに報告しました。

教会の「クリスマスを待ち望むコンサート」にオルゴールで参加することになりました。そのための曲を新たに編曲しています。「川の流れるように」2009.9.16「きよしこのよる」9.17「あらののはてに」9.18「もろびとこぞりて」9.19「主よ、人の望みの喜びよ」9.20「アロハ オエ」9.26「ジングルベル」9.25「RAMONA」ハワイアン音楽、9.29。ハワイアンの曲が入っているのは、近くのハワイアンの料理店でも、クリスマスの前にコンサートを開いてあげる、と何時も食べに行く店と約束したからです。

まだまだ書きたいことは山ほどありますが、この辺で第1楽章を終わります。

* * * * *

小川 隆宏 (5期ピアノ)

小生は堀川高校普通科を卒業。この堀川高校は以前、市立堀川女学校であった。それ以前の経緯をご存じの方々はだんだんと少なくなってきている。終戦後2年程経って京都市内の学校大変革が行われ、市立、府立の学校大編成。その少し以前この堀川高校に、暫時中京高等学校が存在。午前中は堀川高等女学校。同じ学舎で午後は中京高校(男子生徒として在籍)。その後、市立堀川高等学校(男女共学)に編成。男子は市立松原中、府立一中、三中、五中、京都一商、女子は市立堀川女学校、府立第一女学校、府二、等色々生徒が混合編成され、アイウエオ順によるクラス編成で、膨大にも14クラスまで存在した。一学年総勢で600名を越える有様。その中に音楽コースと普通コースが混在していた。ホームルーム以外は選択制のため、同級生はあちこちの教室に移動し、音楽コースや普通コースの学友達と合同で授業を受けた。爾来小生は音楽コースに尤も関心が高かったのは勿論である。

家業の関係から他の大学に進学し、就職は、さる私立高等学校に非常勤として奉職した。社会や国語の先生は要らないが音楽の先生が今必要だ。という事で、音楽を担当することになる。無免許の為何とか単位を取得するようにと教務主に・・・考えた末受験したのが京都市立音楽短期大学ピアノ専攻。勿論此の時は出雲路の学舎であった。ガタガタのピアノばかりが強く印象に残っている。

他の大学で取得した必修単位を、数学を除いては総て認証されたため、空き時間を掛け持ちで私立高等学校の非常勤を兼ね乍ら京都市立音楽短期大学に通学。今思うと夢の様だ。卒業後非常勤から専任として奉職。続いて同学園関連の短期大学の幼児教育専攻が開設され、講師～教授として席を移し、お陰様で音楽に関するいろんな勉強をさせて頂き無事定年を迎える。

この半世紀に日本はヤマハ、カワイの楽器ブームで音楽旋風を巻き起こした。月産ピアノが2万台とも3万台とも騒がれた時代に直面する。コレと共に急激に音楽教室ブームが起こり、ピアノが爆発的に売れた時代を醸し出す。今日ピアノを買いませんか？明日から20%ほど値上がりしますよ。という宣伝に、さるセールスマンは一日に数十台売上げの約束が出来たと豪語しておられた。続いてエレクトーン、シンセサイザー、の時代と。此処に来てバブル崩壊と同時に音楽教育関係に急ブレーキがかかり余りにも見事な程音楽人口の減少を半世紀に見た。漸く先進国西欧並みに足並みが揃った様な気がする。

これからの日本の音楽界は自主的に学びたい者だけが学べる安定した教育と研究に邁進出来る曙を感じる。それらの人達の前途を祝福する。

* * * * *

私の生活と音楽

鈴木 美智子 (9期チェロ)

真声会の名簿が届くたび、どんどん新しいページが増え、名簿の厚さと重みが、ずっしりと増しているのを感じます。歴史あるこの大学の卒業生には、世界的に知られた音楽家も数多いので、皆さまのご活躍ぶりを知るたび、同窓生としてとても嬉しく、誇りに思います。

私が長い間、細々とではありますが、音楽に携わってこられたのは、学生時代から同級生とトリオを組み、今尚、同じメンバーで演奏を愉しんでいることや、コール真声会で声楽専門の方々と一緒にコーラスを楽しませてもらっているお陰です。

私は数十年前から小さな会社を設立し、経営に携わっております。そのた

め、時間的な余裕はなかなかありませんが、音楽をしている時は、精神的にも肉体的にも仕事から解放され、心から豊かな気持ちに浸れます。

音大卒の人々が、音楽で食べていけないことの多い今の日本ですが、どんなお仕事に就いておられていても、いつも皆さまの近くに音楽が在りますように。そう願ってやみません。

* * * * *

私の音楽人生

中島 慈子 (10期声楽)

高校生まで音楽が生涯の仕事となることなど考えも及びませんでした。ただ小学校・中学校・高校と合唱指導の熱心、かつ素晴らしい先生方に巡り合えたことが今の私に繋がっていると思います。高校2年生の折り返し指導を受けた時、音楽の先生より勧められ音大受験を決心いたしました。

急遽、音大受験と言う事で、準備は何一つしていた訳ではなく、与えられた課題曲をこなすのに精一杯の状況でした。なんとかスレスレ合格を頂き、大阪府堺市の浜寺公園より2時間かけて通うことになりました。

他の方々は音大を目指し頑張っておられた方々、合唱以外の音楽を知らない私は凄く劣等感を抱いたものです。ただ根が楽天家の私、声楽を勧めてくださった高校の先生の言葉「歌は40歳ころが本当の歌が歌えるものだ！今は未完成でも将来良くなれば！」を信じつつ、短大卒業時には専攻科が出来、第一期生としてまた2年間京都通いでした。それから音楽生活は今に至っている訳です。

現在もアマチュア合唱団のソリストを務めさせていただいたり、ヴォイストレーナー等、また5つの合唱団の指導者として、頑張っております。

アマチュアの方々は、ほとんど高齢の方々ですが、合唱・音楽が好きで元気の源と頑張っておられます。その方たちの応援を頂き、今なお、仕事出来るのはこの方々あってこそと、感謝しつつ日々励んでおります。

若い後輩の方々に是非言いたい事は、演奏家として音楽指導者として頑張っていくには巡り合った人々を誠実な態度で大切に、これらの人脈をいつまでも繋げて行くことです！！

京芸卒業生の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

* * * * *

藤井 允人 (11期ヴァイオリン)

私が京都市立音楽短期大学に入学したのは、昭和37年。数えれば48年！半世紀近くになります。

専攻科を卒業して京都市交響楽団に2年半ほど在団した後は、定年まで大阪フィルハーモニー交響楽団で演奏活動を続けました。手放しで「オーケストラ生活を謳歌した」とは言えませんが、交響曲を演奏したくて音楽の道に入った私としては、概ね正解だったのかな、と思います。

今回は大フィル退団後、現在の活動について報告させていただきます。

フリーの身になって間もなく、滋賀県の栗東芸術文化会館[さくら]より、ジュニア・オーケストラ指導の仕事が舞い込みました。元来、子供に教えることが不得手でそれを避けていた私ではありますが、これも何かのご縁かと思ひ、お引き受けすることになりました。その後、5年計画でホール独自の「さくら・ジュニア・オーケストラ」を持ちたいという意向に、それならばと、子供たちに楽譜の正しい読み方を教える「アカデミー」を立ち上げることを勧めてしまいました。子供たちが楽譜から音楽を読み取って自分の意志として演奏するには、基礎的な音楽の勉強が必要だと思ったからです。

その結果アカデミーの校長という私が想像もしなかった仕事をするに至りました。アカデミーの講師には、真声会の優秀な若い会員の方々に就任して頂いています。校長とはいえ、小さな組織なので、ヴァイオリン・クラスの指導やアンサンブルの指導は勿論のこと、音楽理論にまで顔を出しています。

音楽を演奏するという事は自己の意志の表明に他なりません。

私は子供たちが楽譜と向き合っ、大人の押しつけではなく、音楽のイメージを持ち、自分の意志で演奏出来るようになって欲しいと思っています。

その時、根柢になるのは、作曲家たちの書いた楽譜。バッハやモーツァルトのような大天才の思いの丈が楽譜という形で私たちに残されている。しかも、曲がりなりにもその読み方を習得している私たちはなんと幸せなことでしょう。もっとも、その楽譜をどこまで正しく読めるか、感じられるか、これが問題。大問題。一生かけても難しい。

現役時代であれば、指揮者のやることに気が入らなければ、「それは、ちがう」と意見すればよかったものが、子供を教えるとなると、そうはいかなくなりました。よく言われる「教えるということは学ぶこと」が身にしみてわ

かりました。現に子供の教育に携わるようになってからは、勉強量が増えました。

日々、子供たちの成長や能力に驚いたり喜びを感じて過ごしています。

最近、古楽及び古楽演奏法が気になっています。今までは不覚にも、意味無く、意識的に無視していた分野です。きっかけは、バロックヴァイオリン奏者・寺神戸亮さんが演奏するヘンデルのソナタを聴いたことです。これまでは、否定的に考えていたメッサ・ディ・ヴォーチェ（音をふくらませて弾く古楽奏法）の音を、彼は、効果的に美しく聴かせていました。考えてみれば古典派やロマン派の音楽であってもそれ以前の音楽と隔絶しているということはある得ない訳です。そう考えると、古楽のことをいろいろと知りたくなってきました。

真声会会員の中にもバロックヴァイオリン奏者・坪井一宏氏や、以前この欄でバロックバイオリン製作・演奏をされていると書いておられた谷野知子さん、他にも古楽に取り組んでおられる方々がいらっしゃるようです。機会があれば是非お会いして親しくお話をお聞きしたいと思います。その時はよろしくお願いたします。

* * * * *

現在までの歩み (あるいは雑多な音楽活動?)

文字 清 (15期クラリネット)

大学を卒業して半年、確かな仕事もなく、さてどうしようかと思ひあぐねている時、突然ヤマハから「吹奏楽の指導者にならないか？」と誘いがありました。実は卒業の時点で当時の故蔵田教授から大阪市音楽団(吹奏楽)入団の推薦があったのですが、吹奏楽なんて、と云う今から考えると世間知らずの若気の至り、有り難い話を断っていたのです。

東京、ヤマハ音楽振興会で特訓が始まりました。教授陣は吹奏楽界で有名な兼田敏氏(堀音〜東京芸大、作曲家)はじめ原田先生、大橋先生、広岡先生、秋山先生、等々一線活躍されている方々。作曲、指揮、合奏法、アナリーゼ、マーチング、世界の吹奏楽事情、運営法、等約2年間にわたってみっちり勉強しました。また勉強の合間を利用して日本各地の吹奏楽の現状視察、それこそ北海道から沖縄まで出かけた。この時の経験が今の私に血肉のごとく力となっているのを感じる昨今です。

京都に帰ってきてから多くの素晴らしい楽団と仕事することになります。関西吹奏楽団(大阪)、龍谷大学吹奏楽部、立命館高校吹奏楽部、吹奏楽団ハイブリット、それぞれに今や日本、関西を代表する楽団に育ちましたが、客演指揮者あるいは技術顧問として長期間一緒に活動出来たこと、幸せに思うと同時に私の誇りであり密かに自負もしています。

プレイの方も下手くそなクラですが頑張りました(笑)。幸運にも岩淵教授の知古を得て岩淵カルテット丸抱えでクラによる室内楽リサイタルを何度も催す。(ここだけの話、教授は知る人ぞ知るアマチュア棋士ですが、麻雀も相当なもので(爆笑)堀政文氏(N響ソロコンマス)らとよく自宅に呼ばれました)知古はその折り出来たのです(大爆笑)。また教授は現代音楽に造詣が深く(東京時代に現代音楽工房で武満徹や吉田秀和らと活躍された)教養を受けて、岩尾祐、前田守一氏による委嘱作品も演奏しました。

字数の制限もあり詳しく書けないのが残念ですが、幼保で自創作によるリトミック教室、器楽合奏(現在市内数ヶ園)、アンサンブル・ジョリーによる府下一円のじゃりコン(失礼)(府文化芸術室委託)、大阪府音楽団客演演奏者、高等学校音楽教師(20年)と、なんとまあ自分でも呆れるぐらいの超雑多ぶりですね。どこから、どうして、こうなっちゃったんだろうね?

現在、京都大学吹奏楽団音楽監督、技術顧問を務める。まだまだ新しい仕事あるかな?(笑)。

* * * * *

川勝 一摘 (20期ピアノ)

私が大学生だった頃、音楽学部の学舎は古都の風情の残る岡崎の一角にありました。

卒業後すぐにお世話になったのが現在も私の職場である京都子どもの音楽教室ですが、岡崎から始まって、早三十数年の年月がたち、勤続年数の最も長い研究員のひとりとなってしまいました。今や京芸からの若いエネルギーが教室にみなぎり、子どもたちの音楽教育の場でそれぞれの力を発揮されています。

若い先生たちの専門的な能力を垣間見て、私も若い時にもっともっと頑張っておけばよかったと後悔の思いにかられていますが、またそれなりに適度な刺激にもなっています。

子どもたちと接する仕事のせいか、最近おはなし(童話)を作ることにすっかり魅せられてしまい、自作のおはなしを語り手とピアノ演奏で紡ぐ音楽会など試みるようになりました。自分の思いを自由な想像の世界で表現できる楽しさ、それに楽曲を選びおはなしに合わせる楽しさが加わって、その魅力に取りつかれています。ピアノを練習し演奏することも、身のまわりの何気ないものに命を吹きかけておはなしを作ることも、私が私であることを知る手段であり、自分が成すべきことは何なのか、忘れそうになっていることは何なのか、教えてくれる場でもあるのです。

これからの人生の後半は、ピアノから背を向けられることなく、自分流のやり方で夢を描けたならよしとせねば……。来春には私の世界にちょっぴり共感していただきたく、地元での四度目の音楽会を開く予定です。

* * * * *

小林 裕 (33期声楽)

卒業の年に、演出の恩師である故芦田鉄雄先生のご紹介で入団させていただきました。京都オペラグループの公演「脳死を越えて」で、オペラデビューをさせていただきました。それ以来、毎年2本強のペースで続けておりましたオペラ活動を、蔵田裕行先生のご紹介で出演した2001年9月16日びわこホール県民オペラ「マルタ」を最後に中断しておりました。

実は私が音楽の道を志すきっかけは「声楽物の指揮者になりたい」という思いからでした。

が、卒業当初の仕事は、高等学校の非常勤講師で、週に27時間も受け持った年もありました。

合唱関係の仕事といえば、大学のサークル合唱団のトレーナくらいのことでした。

それが、ちょうどこの頃、やっと、混声合唱団一つ、女声合唱団二つ、地域のPTAコーラス二つの指揮者に就任することができ、オペラの副指揮の仕事、京都子どもの音楽教室の合唱講師等指揮の仕事が増え、神戸市混声合唱団退団後に入った大阪音楽大学オペラハウス合唱団も前年に退団し歌い手としての仕事が無くなったこともあり、指揮活動に専念したいと思ったのがその理由です。

それから8年たった、今年9月に、高校の恩師である葛西進先生が作曲、指揮、演出をされる創作オペラ「秀とカッパの笛」の出演依頼をご本人から頂き、三日公演全てに出演させていただきました。

勘が鈍っているのではという不安もありましたが、現場に行くとそんな思いも吹っ飛び、舞台上立つ楽しさを再認識してしまいました。

また、オペラ歌いの血が騒ぎ始めている今日この頃です。

* * * * *

山上 友佳子 (34期作曲)

私は作曲専修を卒業してから現在まで母校の京都芸大はじめ、三つの大学で講師をしています。京都芸大では、楽曲分析、作曲科と指揮科のスコアリーダーを教えています。同時に、今まで作編曲や演奏活動もしてきました。遠いところでは京都市派遣によりチェコ・プラハでの「日本文化週間」にて、日本の唱歌の演奏会に出演し、編曲やピアノを担当しました。明治の女子学生スタイル・袴姿で演奏し、唱歌の歌詞を英語に翻訳したのは楽しい思い出です。最近では昨年、フランス人ヴァイオリニストのエレーヌ・ラサル氏とのデュオ・リサイタルを京都で開き、私がピアノを弾きました。「フランスと日本を結ぶ春の午後」と題して、フランスと日本の作曲家を中心に、しかもほとんどが日本初演作品ばかりのプログラムで構成しました。たとえばセザール・フランクの弟子で盲目の作曲家ルイ・ヴィエルヌのヴァイオリンソナタはフランクをしのぐ秀作なので、ぜひたくさんの方に知ってほしいという強い思いがありました。

大学時代より作曲家の廣瀬量平先生に非常にお世話になりました。私の音楽、芸術を高めてくださっただけでなく、人生すべてにおける師でもありました。先生は昨秋、惜しくも亡くなられ、道しるべを失ったような思いがしました。先日の11月19日に京都コンサートコンサートホールにて、先生の追悼演奏会が開かれ、遺作がいくつか京都市交響楽団によって演奏されました。私はその中の一曲「午後のパストラル」チェンバロ付加版を初演しました。この曲は元来、フルートと弦楽合奏のための作品ですが、先生には生前、チェンバロ付加の構想があたりだったと先生の死後にご遺族からお聞きしたので、私が僭越ながらそれを受け継ぎ、編曲して演奏しました。恩師の供養になればこんなにうれしいことはありません。

あまたある古今東西の名曲はもちろんすばらしいのですが、今を生きる作

曲家が生み出す音楽を演奏したり紹介していくのも、われわれの使命だと感じます。私自身は、これからも亡き師の教えを継ぎ、社会と密接なつながりをもった音楽家であるべく精進したいと思っています。

* * * * *

北川 まどか (35期声楽)

皆様、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

京芸を卒業してから間もなく20年になります。私は卒業すると同時に京都市の公立中学校の教員になりました。赴任した学校はとても荒廃していて、校舎の窓ガラスは一枚もなく、いつも上を見上げて歩かないと何が落ちてくるか分からないような状態でした。就職してからも声楽のレッスンを続けるつもりでしたが、生徒指導やクラブ指導で休日もなく、全く不可能でした。一方、京都市少年合唱団の指導にも当たりました。これは、京都市の指導主事であり京芸の先輩でもあり、さらに私の担任の先生だった佐々木 研 先生から推薦していただいた為です。この合唱団はレベルが高く、他の指導者の方々はとても優秀な方ばかりだったので、やりがいを感じ、たくさんのごことを学ぶことができました。

公立中学校と合唱団を10年で退職し、ノートルダム小学校に再就職、これも2年で退職し、2002年からは現職の同志社女子中・高の教員をしています。

1994年に結婚し、家では一児(小2)の母です。仕事と家事・育児の両立は大変ですが、職場ではたくさんのお本と勉強する時間も与えられ、家庭にも恵まれて充実した日々を送っています。

娘が大きくなったら、夏休みはヴェローナで野外オペラ、年末年始はウィーンで「こうもり」とニューイヤーコンサートを…などと夢見ています。

* * * * *

イタリアでの活動

田淵 宏幸 (40期ヴァイオリン、45期作曲)

ヴィチエンツァの音楽学校で古楽を勉強しつつ学校の代表者としてイタリア各地で演奏しています。この中で一番印象に残っているのは去年10月ヴェネツィアで演奏したことです。バッハ:カンタータ106番「神の時は最上の時なり」で第二ヴィオラ・ダ・ガンバを演奏しました。ヴェネツィアのローマ広場までバスで行きました。そこから現地(サンジョヴァンニエレモジナーリオ教会)までは、みなさまご存知の通り、車は通れないので、みんなで楽器を持って20分くらい歩きました。このときの楽器編成は、アーチリュート、ヴィオラ・ダ・ガンバ2、チェロ、コントラバス、備え付けのオルガンそしてリコーダー2に声楽5人。観光地として有名なヴェネツィアですが、音楽史上でもっとも大事な町の一つでもあります。そこで楽器を持って歩いて演奏会場に行き演奏できたことは貴重な体験が出来たと信じています。ヴィヴァルディーの曲もあったので、もしかしたら彼もここで演奏したかもしれません。

今、ヴィチエンツァにいますが、私にとって、フィレンツェ、ペーザロに続いて3つめの町です。イタリアでの音楽学校のシステムとして、音楽学校通しであれば自由に場所を変えて勉強することが出来ます。私はこれを利用しました。忘れられない出来事がイタリアに着いて3日目の朝にありました。まだ右も左もよく分からなかったころ、フィレンツェ、サンタマリアノヴェッラの駅前の小道である方とすれ違いました。すれ違って2、3歩過ぎたところで「田淵君？」と声をかけられました。振り向くと、音楽リトミックとヴィオラ・ダ・ガンバのレッスンで何度かお世話になった平尾雅子先生でした。こんなイタリアの一点で、なんの約束もなしに、ばったり会うって運命的なことがあるんだと思いました。彼女の紹介があったのでフィレンツェの音楽学校に無事に入れました。

町全体がユネスコの世界文化遺産に登録されているヴィチエンツァ。16世紀に作られたものが今もそのまま残っています。旧中心街全体です。その中で西洋の古楽を勉強しています。きっと今勉強している作曲家たちも同じ景色を見て、同じ空気を吸っていたんだと思います。

* * * * *

宮下 薫 (41期ピアノ)

来たる2010年1月1・2日と京都東山七条にある「ハイアットリージェンシー京都」にて、京芸の卒業生を含む25名の室内オーケストラによるニューイヤーコンサートを開催させていただきます。

実は今年も開催させていただいたのですが、これは東京の広告代理店に勤めていた弟が独立し、伝統だけにとらわれるのではなく、今の京都ならではの取り組みをと試みる様々なイベントの一つとして開催したもので、家業が

呉服屋と言うこともあり「西洋と東洋の美の響演」と題し、会場内に着物を展示した中でのコンサートとなりました。

家族でありながら全く別々の環境に育った弟との初めての仕事は音楽一筋で育った私の固定観念をも一瞬にして覆すような企画・計画で、準備期間も2カ月弱と言う強行スケジュールの中、選曲からメンバー集め、ホテルとの打ち合わせ等、ピアノ科出身の私としては戸惑うことばかりでした。(ホテルの打ち合わせ等に関しましては長年お世話になりました真声会本部でのお手伝いの経験が非常に役に立ちました。)

正直間に合わないのではと思った時もありましたが、京芸や高校の同窓生の皆様に支えられ、とても短期間で編成したメンバーとは思えない、息のびったりと合った演奏は、さすが京芸生と思わずにはいられないほど素晴らしいものとなりました。

今年は京都の鷹ヶ峰に芸術村を築き、後に琳派と呼ばれる芸術家達に多大なる影響を与えた「本阿弥光悦」と、ほぼ同時代に活躍した西洋の作曲家を代表して、同じく後の作曲家に多大なる影響を与えた「Bach」を主として「J.S.BACHと光悦」と題したプログラムを組ませていただきました。

本来ならば接点すらなさそうな、クラシック音楽と和の世界。

しかし、ゴッホが浮世絵を収集し、ひたすら日本に憧れていたように、ドビュッシーが東洋の響きに魅せられたように、等々、グローバル化されていく時代の中で、決して感化されずにはいられない関係でもあったのではと思います。

呉服屋という環境で育ったからこそ感じる西洋文化と東洋文化の違いや共通点。それらを音楽を通して着物を通して、聴覚から視覚から、様々な人に楽しんでいただければと思っております。

ご興味をお持ちの方は、ウェブマガジン voice of KYOTO <http://voiceofkyoto.com>にて詳細をご覧ください。

今後も続けて行ければと思っていますので、同窓生の方々にも色々ご尽力をお願いすることになるかもしれませんが、その時はどうか宜しくお願い致します。

* * * * *

杉浦 昌美 (48期作曲)

現在、私は大阪の府立高校で教師をしています。教師になって6年になり

ますが、今年度は担任として初めての卒業生を送り出します。私自身が京都市立芸術大学に在学していた頃、「保険」のつもりで取得した教員免許が、現在の私の仕事の中心になっているのかと思うと不思議な気持ちになります。

今、教師という立場に立って多く子どもたちを見ていると、他者とのやり取りによって身につくはずのコミュニケーション能力や向上心を知らない生徒が増えてきています。「音楽」を教えるということはどういうことなのか。「音を楽しむ」ことや、興味を持たせてそれを維持すること。今まで音楽表現をしたことがなかった、若しくは苦手だと思っていた子の苦手意識を拭うこと。そして生涯にわたって音楽や芸術に触れていたいという思いを繋げ、そのことによって心を豊かに成長させること。さらに友人たちと交わり、コミュニケーションを繰り返す中で「他者の話を聴く」「自分の考えを持つ」「自分のことを伝える」「プレゼンテーションによって何かを伝える」ことのできる人間に成長することを、生徒たちの、そして自分の目標としています。

いち教科担当として毎年3年生の卒業を迎えるたびに、素敵な大人に成長してくれている喜びを感じますが、今年度は教科担当であると同時に担任としても、一緒に育ってきた彼ら、彼女らと卒業式を迎えられることがとても楽しみです。

最近よく思い出すのは「教師をすることになった」不安を抱えながら、恩師である松本日之春先生にご報告に伺ったときに頂いた言葉。

「教育は防波堤やダムを作って、流れをおさえつけるのではなく、自然な流れを見守り、決壊しそうなときに、そうならないように導いてやればいい。」この言葉に、今も励まされながら仕事を続けています。

今年12月12日(土)に京都青山記念館バロックザールにて、私の作品演奏会「竹とナナフシ」を開催することになりました。この演奏会を通して、私が今までに学んできたこと、これからも学び続けたいこと、そして私を成長させてくれた恩師や仲間たちへの感謝の気持ちと、私の後を歩むもっと若い人たちに「生きる」メッセージを伝えたいと考え、心を込めて取り組んでいきたいと思っています。

今号の会員だよりには14名の会員の方より寄稿いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

真声会 各支部活動報告

京都支部

京都支部長として2年間大変ご尽力頂いておりました阪田前支部長が都合により辞任されましたので、及ばずながら副支部長の私がしばらくの間そのあとを引き継いで頂くことになりました。全く非力ではございますが、皆様に支えて頂きながら、京都支部の一層の発展のために全力を尽くしたいと願っております。どうぞよろしくお願い致します。

去る6月13日には「企画講座」として、京都支部会員でもおられます本山秀毅氏に合唱講座をして頂き、真声会以外の一般参加者も含め、日頃指導的な立場の参加者が楽しく合唱指導法を学びながら、20名の受講者全員でハーモニーを楽しみ、充実した時間を味わう事が出来ました。参加者から大好評であった為、また次回も続けてお願いをしたいという計画を立てています。

京都支部の年度は9月からになっていますので、毎年9月の第1日曜日に総会を開催していますが、今年も9月6日(日)にウイズユーに於きまして第20回京都支部総会を開催しました。総会後、講演をお願いしました合田史郎先生に、「年と共に考える事」と題して先生のご健康面での体験を通して、自分の健康と大切な音楽と共に生きる人生のあり方について、ユーモラスな中にも含蓄のあるお話をして頂きました。引き続いての懇親会では出席者の皆さんの笑いに溢れた和やかな雰囲気の中で、会員相互の心の交流をし、有意義な時間を持つ事ができました。

11月1日には支部報第25号を発行し、支部会員同士の情報交換の場として夫々が京都支部会員としての認識を深め、この支部報が会員の中で有意義に活用される事を願っています。また来年5月16日(日)には、府民ホール・アルティで第27回プロムナード・コンサートを開催します。皆様のご来場をお待ちしています。

支部長 山田晏子 (10期声楽)

大阪支部

2009年度総会が、去る6月15日(月)夜、大阪駅のホテルグランヴィア大阪・レストラン「フルーヴ」にて開かれました。出席者は、日頃ご無沙汰の会員を含めて19名。元演綾子先生もご出席

いただき、とても和やかな会となりました。

支部長・大村益雄さん(1期作)の挨拶に始まり、私、金森が一年のまとめを報告、続いて、飯田真基さん(17期Vn)が会計報告、井上惇子さん(1期Pf)と竹内恵子さん(5期Vn)が会計監査報告を行い、全て承認されました。

08年の活動は、プロムナード・コンサート(11/2大阪狭山市文化会館SAYAKA小ホール)をさやま芸術祭参加として開催、支部報発行2回、世話役会3回、事務局会計決算会議1回、大阪支部後援名義使用許可公演9件でした。なお、プリリアント・コンサートは今年度は開催出来ませんでした。会計は、プリリアント・コンサートが開催できなかったことと、支部報が2回しか出せなかったことなど活動がやや滞り、次期に備えて繰越金を残す結果となりました。

これからの活動について、①プリリアント・コンサート開催については、主担の大富栄里子さん(28期Pf)から報告「再構築するために一旦休止したが、出演者確保を含めたコンサートの持ち方については妙案が出ないまま推移した」を受けて、出席者からいろんな意見が出されました。結果、コンサートのあと総会という方向で、具体化をすすめるとしました。従って、2010年5月以降の開催で、2009年度には開催しないこととなりました。②引き続いて、プロムナード・コンサートの開催を模索するとしました。

あとは、ディナーとなってフランス料理に舌鼓、大いに親交を深めました。特に、元演先生からの短大時代の思い出話は熱気を帯び、みんながよく勉強したことを称えておられたことが印象的でした。

1月29日(金)午後4時15分から、金蘭会中・高校講堂で、日頃お世話になっている感謝の「音楽鑑賞会」開催を予定しています。学校音楽会の見本になればと目論んで、他の学校の先生にも見てもらうことにしています。

大阪支部に関するお問い合わせ・入会は、事務局545-0004大阪市阿倍野区文の里4の12の25樋口博行方、電話とファクス06-6624-3425まで。

副支部長・広報担当 金森重裕(6期CI)

奈良支部

蝉時雨もツクツクハウシに変わるころ、「皆で集って音を出して遊んでみよう」という試みを奈良で開催しました。名づけて「音だし会」[8月23日(日) 39期打 前川典子宅スタジオ"かまぼこ"にて]。

真声会奈良支部の役員会では、昨年来、「地元つながり、知人つながり、同窓つながりを大事にして、そこから生まれる音楽活動(アンサンブル)がもっとあれば良い、定期演奏会がそういった音楽活動の発表の場になればさらに良い、支部として力を注ぎたいのはそこではないか」という意見が交わされており、実現に向けた具体的な活動として、懇親会などの機会は既に設けておりましたが、「音を出してみよう」という発案から、実際に各々が楽器や楽譜を持ってスタジオに集まったのは初めてのことでした。

参加者は、京芸出身の、チェロ1名、ヴァイオリン3名(ヴィオラ持参)、打楽器(マリンバ)1名、ピアノ3名。カルテットが組めたうえ、お借りしたスタジオにはグランドピアノとデジタルピアノがあり、2台ピアノ作品をも楽しむことができました。初対面の緊張や戸惑いも、世代の差も、いざ楽器を持ち、互いに助けあった楽譜をのぞきこめば、途端に距離が縮まるようで、初見演奏ながら、アンサンブル大会となりました。あつという間の数時間でした。

以下は、演奏(音出し)して楽しんだ曲目の一部です。

♪モーツァルト/交響的協奏曲(ピアノ伴奏)
/2台のピアノのためのソナタ 二長調

♪リゲティ/ピアノ連弾小品集

♪チャイコフスキー/ロシア民謡によるピアノ連弾集/弦楽四重奏作品

♪ベートーベン/ピアノトリオ「街の歌」

♪バルトーク/ルーマニア民族舞曲集(マリンバとピアノ)

参加者の後日談として、「音楽の力はすごい、音楽っていいな」の感想が聞こえました。確かに、自身が奏でるだけではなく、目の前でサラリと弦楽四重奏が奏で始められる凄さ!それは「聴く幸せ」を思い出させるものでもありました。演奏上の楽しみだけではなく、持ち寄っていっぱい広げた楽譜から様々な談義が生まれたり、敬遠していた作曲家の「ピアノ連弾作品」の面白さに驚いたり、専攻の違いから普段は聞くことのないお話やら楽器構造やらを伺えたり、久しぶりに聞く知人のお名前やご活躍の様子に「自分も久しぶりにメールしてみよう!」と思えたり。

わたしたちが持つ共通のアイテム「音楽」がいかに幅広く、人と人、人と機会をつなぐものであるか、また日常における(=演奏会場ではない)音楽のたのしみ、ゆたかさがいかに大きいものであるかなど、改めて感じることができる、非常に示唆に富む企画であることがわかりました。

今回の試みは、奈良支部が先導し、支部報での広報も行いましたが、主に同窓友人間の誘い合わせという方法を探りました。それもまた「つながりを大事にしよう」の視点から大切なことではないかと考えます。今回は初回ゆえ参加者多数とはなりませんでしたが、とても楽しいうえに、有意義でもありますので、この「音だし会」はぜひ次回、次次回と続けてゆきたいと思っております。

奈良支部長 高橋せつ子(16期打楽器)

関東支部

今年度も、銀座のキハチにて開催された総会及び懇親会(6月15日)から関東支部の活動が始まりました。参加者12名(委任状29通)。少ないながら和やかな集いとなりました。

7月5日に会報第13号Harmonyを発行。写真満載のカラフルな紙面は、会員の皆さんの間で好評を得ています。昨年からはじめたインタビュー記事「こ

の人にきく!」のコーナーでは、高田剛志さん(38期チェロ)にご協力をいただきました。豊かな自然環境の中で、ご家族を大切に暮らしつつ、しっかりとしたポリシーを持って音楽活動をされている高田さんのお話をたっぷりとうかがいました。

亡き土師博志さん(20期作曲)に送られた、東京で共に活動をされていた加藤アオイさん(16期ピアノ)からの追悼文も胸を打つものでした。

10月31日には新宿文化センター・小ホールにて第14回定期演奏会を開催。入場者は96名でしたが、あたたかい拍手でささえてくださいました。コンサートは、意欲的な選曲で聴き応えのする内容でした。三人のソロとヴォーカルアンサンブルを組み合わせたものや、テノールにヴァイオリンオブリガートを乗せたものなど、形態も工夫されて楽しく自由な雰囲気です。当日お客様に配られるプログラムには演奏者達の思いやメッセージがたくさん込められていました。

今回は48期ピアノ科の辻有里子さんが初出演されて、妊娠中でコンディションの不安定なところ、驚くべき気力をもって色彩豊かなメシアンを演奏してくださいました。何といっても若い新入会員さんを迎えられることは関東支部にとってはこのうえなくうれしい出来事です。

折しも新型インフルエンザの流行が広がる中、本人はもとより、ご家族のおからだのことを懸念しながらコンサートに臨む出演者も多く、健康あつての音楽活動だと実感をする定演でもありました。 曾我尚江(27期ピアノ)

中部支部設立報告

このたび、主に愛知、岐阜、三重を中心に「中部支部」を立ち上げることにになりました。来年4月の新設立にむけて7名の発起人で会合をもちながら準備を始めています。今や全国、海外で多くの卒業生が素晴らしい活躍をされておられ、大変心強く思います。

また各支部が活発な活動を展開されており、会報での支部報告を拝読するたびに名古屋周辺でも設立されることを前々から待ち望んでいました。小さな同窓会は、卒業期ごとや有志で行われていると思いますが、特に個人で活動されている方の場合、会員交流の機会が少ないのが現状ではないでしょうか。

研鑽を積んだ日々の思い出がいっぱい詰まった母校を懐かしみながら語り合えたら、また、演奏会などの情報交換の場としてお互い励みになれば、時を経て遠い存在になっていた京芸が身近に感じられるようになれば、など相互にきつと意義あるものになることと思います。何よりも活動、年齢を問わず、縦(先輩後輩)、横(同級生)の連携、親睦を深めることのできる場を作りたいと考えています。

振り返れば、音楽をとりまく環境も随分様変わりしました。来年、創立130周年を迎えるという感慨に加え、以前にも増して母校を想う年齢になったという個人的な郷愁が心の片隅にあるのも確かです。音楽も政治と深く関わっている現実を目の当たりにし、私たちは厳しい社会におかれていることを実感するこの頃です。そんな中での設立準備は慣れないことばかりで至りませんが、会長をはじめ、本部役員、支部長の皆様方のあたたかい応援をいただきながらスタート地点を目指して発起人一同、和気あいあいと作業をすすめています。

ご賛同いただける方(お手伝いして頂ける方大歓迎!)の参加を心よりお待ちしております。対象となる会員の方々へのご案内は、「2008年度版真声会名簿」をもとに12月発送の予定です。何卒ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

発起人代表 中島百合子(19期作曲)

追悼

「田中 正大先生」を偲んで

33期 ホルン 村上 哲

平成21年4月16日に田中正大先生は薬効の甲斐なく心不全のため、お亡くなりになりました。70歳でした。

田中先生は昭和62年1月1日から平成3年3月31日までの間、京都市立芸術大学音楽学部教授として在職されました。

田中先生は京芸にこられる直前の12月までNHK交響楽団で首席ホルン奏者として、ご活躍されておりました。確か先生はオットマール・スイットナーさん指揮の「第9交響曲」を最後に、N響を退団されたと記憶しています。

当時先生がレッスンに来られる時の門下学生の期待感と緊張感は今でもよく覚えています。失礼ではありますが先生は決して饒舌とは言えない方でした。しかし言葉数は少なくとも先生のホルンやオーケストラに対する情熱や向き合い方を、先生の吹いていただく音から直接感じる事ができるレッスンは、とても有意義な時間でした。レッスンの後は、お酒の席も良く一緒にさせて

頂いて、色々なお話を伺えたのは何にも代えがたいものになりました。

京芸を退職された後は武蔵野音楽大学で教鞭をとられ、退官されてからは奥様と毎月のようにさまざまなお出かけ旅行され、楽しまれていたと伺っております。ここ数年は体調を崩されて、ご家族が献身的に看病される日々が続いていましたが、残念ながら先生は旅立たれてしまいました。大げさな事を好まれない先生のご遺志を尊重されてご葬儀はご家族、近親者だけでとり行われたとの事です。

楽器が奏者を選ぶのか、奏者が楽器を選ぶのか、まさに田中先生の信念の様な、あの真っ直ぐに伸びゆく音が今でも強く記憶に残っています。

私事ではありますが、田中先生の教えることができた人間としてプライドを持って、生きていきたいと思っています。

「田中先生、本当にありがとうございました。今は安らかにお休みください」

指揮者インタビュー

阪哲朗さん(35期作曲)は、今年9月にドイツのレーゲンスブルク歌劇場の音楽総監督に就任されました。これまでも、ヨーロッパの多くの歌劇場で指揮をされてきました。

今年度、京芸が130周年を迎えるにあたり予定されている記念事業のうち、第133回定期演奏会《第九》、大学院オペラ《椿姫》を指揮されます。

大学が夏休みに入る直前、大学院オペラの稽古のため京芸に来られた際に、お話をお聞きしました。



—これまで何度か、京芸の記念演奏会等に出演されていますね。一番最近では2005年の大学院オペラ《フィガロの結婚》だったと思います。

阪：そうですね、あれは2005年大学院オペラの20回記念ですか。その前に、ブラハにも行きました。あれが2000年、120周年だったのですね。定演で演奏してから向こうに行って、スメタナホールでドヴォルザークの8番、前田先生のオペラ《おなつせいじゅうろう》の抜粋でした。

その後、音楽学部の50周年記念、2002年ですね。この時、『情熱大陸』の取材が入りました。(2003年1月放送)「この演奏会を練習から取材することを条件に」と言っ。学生さんの、演奏会へ向けてのモチベーションアップにもなるでしょうし、学生さんへのインタビューでもあれば記念にもなると思いました。ソリストは京芸出身の大先輩の方々、嶋崎さん、三木香代さん。菅先生も上村先生も出演されていましたね。そして《ばらの騎士》組曲でした。その前は……ずいぶん前ですね、フィガロをやったんです。あれはたしか、平安遷都1200年記念でした。だから、94年ですか、大学院オペラで《フィガロの結婚》を日本語で、京都府会館第2ホールでやりました。実はこの時初めてフィガロを振ったんです。もう15年前になりますが、今度の第2ホールはその時以来です。

—今年度の大学院オペラ《椿姫》ですね。でもその前に定期演奏会の《第九》ですね。京芸へは5・6回目ですか？今年度だけで2回ってすごいですよね。

阪：ええ。京芸に2・3年に1回は現れていますね。94年と2000年の間がちょっと飛んでいますが、その間に確か、佐渡さんが第九振られてますよね。僕、たまたま日本に居たので聴きに行きました。

—1998年の、定期演奏会100回記念ですね。

—さて、今回130周年ということで、この記念の年に演奏する《第九》への想いをお聞かせください。

阪：僕は、多分日本人指揮者の中では第九振ってる回数がすごく少ないと思います。以前、年末の第九も少しやったこともあったのですが、あの時期はオーケストラもいろんな指揮者と第九やっていて、大変だと思います。昔の仲間に「阪、何いいこと言ってくれて、今の俺たちには無理なんや(スケジューリング的に)」って言われてね。そういう環境では第九は絶対にやってはダメだと思うんです。だから年末の第九はもう一切やっていません。みんながよく知っている曲だからこそ、オケ練習に時間をかける必要があると思います。

—今年度前期に、今回の第九に備えて、1楽章から4楽章まですべて、分析の一般クラスで同時に開講しています。

阪：それはすごいですね。今、第九の楽譜はありますか？(第九のスコアを見ながら)本当に謎の多い楽譜です。多分、実際の版としては指揮者の数だけあるのではないかと思います。この楽譜のとおり、僕は演奏するようにしていますが……。謎は多いですね、テンポの表示からなにか、校訂版ではクエスチョンマークで書いてあったりします。きちんと記譜しなかったベートーヴェンの責任であるところもあるし、ほんとにそうなのか？というところや、不協和音があったりします。

それで、第九への想いですね。実は日本で振る前にスイス時代に初めて振ったのですが、日本から大阪の合唱団が60人くらい来て、スイスの合唱団と合同でやりました。95年に阪神大震災があって、スイスに行くのをもうやめようかと言っていた時、合唱団の中で一番被害の大きかった方が「こういう時にこそ、スイスに行って第九を！」と言いだしたこともあって、合唱団の強い意志で実現しました。むこうの合唱団は賛美歌を歌うみたいなのにさらっと歌うんですよ。日本は、がーっと歌うでしょう。だから、縦糸と横糸がはまった感じで、流れる歌とガツガツする歌とがよい感じにミックスして、芯と流れとができたんです。

それで、その94・5年頃はスイスでの外国人の割合がすごく増え、外国人排斥の傾向がありました。これ以上増えるとスイス人が職を失うという感じだったんです。僕だけではなく、第三外国人っていうのに属するいわゆるヨーロッパ白人系ではない人、東欧諸国、ハンガリーなど。あの辺りは



西欧から見て芸術的伝統のない国って分類されていて、それはおかしいですよ。それからアジア。中国、韓国、日本。オケには他にも外国人がたくさんいたのに、そういう第三外国人が対象になってしまい、それで、僕らの首が一斉に飛んだんです。オケや歌劇場がこの人が必要だという契約書を持つ

切り取り線

ていても、その上の労働許可局がセーブしてるからダメなんです。オケの事務局の対応が後手後手に回ったのも災いして、期日までに書類が準備できてなかったりしたのがあります。

そういうことで、もう一度、一から試験することになりました。でも僕にしてみたら、とても屈辱的な話で、自分が一回取ったポジションを、公募した他の人と一緒に並んでもう一度試験するわけですから。そして、同じ頃から働きだしたヴィオラtuttiの日本人と僕の2人がビール(スイスの都市)では首切りの対象になってしまい、ほかのオケではチェコ人のコンマス(ルツェルン)ハンガリー人のホルンのトップの人(チューリッヒ)など、全部同時期に“ブラックリスト”に載ってしまいました。

その後、ブローベシユビールというオーディションがあって、幸か不幸か、その彼女と僕はもう一度通りました。たまたま2人ともうまくいって良かったのですが。そういうことがあって、一体人種とは何だろうかとか、第九で謳われてる「兄弟になる」という歌詞の意味を、考えさせられました。僕が26・7歳ぐらいの時です。指揮をやりだしてまだ数年目でした。第九という曲の持つ重み、歌詞の一つ一つの重み……。18歳の時にここ(京芸)で歌っていた第九、「人類みな兄弟になる」。平和な社会ではどうしても言葉だけが滑りがちだったりしますが、僕がいたのは中立国のスイスでしたが、周りでは戦争や紛争が起こっている中で、第九の歌詞がすごく心に響きました。演奏メンバーの中にはそのことで盛り上がり泣き出す人も居ました。そういう経験をしたので、僕にとっては第九は気軽に扱えない曲の筆頭なのです。

—第九への想い、すごいですね！感動しました。

—それでは、《椿姫》について少しお話を。

阪：学生さんの本番だから、幕ごとにキャストが変わるのですが、椿姫はそういう意味でやりやすいかもしれないですね。主役のヴィオレッタは、一人の人が歌うには本当に大変な変わり方をするから。最初はコロラトゥーラに始まり、最後に行けばいくほどだんだん重くなっていく下降線を辿るから、一人がやると、ドラマティックの人にすると最初が大変です。最初を楽に歌う人は後半大変。オールマイティな人でもどれも100%というわけにいかないから、どこかで抜くところを作らないといけない。全曲出ずっぱりだから、実際もたないですよ。だから分業にすればそういう意味ではいいかもしれません。イタリアものは、すごく凝縮されているから、ワーグナーなら何時間もかかるところが、すぐに結論が出る。本当は余計な細工は無しに素材で勝負、付け合わせも何もなく味付けは塩、コショウ、オリーブオイル、のようなシンプルなイタリア料理のようになればいいと思います。

オペラに限らず、音楽は僕にとって本の朗読のようなもので、その本にあたる設計図が楽譜。筋書きはその本の通りでも、ここをこう膨らます、あそこをこうと、それはそのときによって違います。名作といわれるもので、プログラムの候補に挙がるものは、何を選んでも勉強になります。ですから、難しいけれどそのときの学生さん達に一番合ったものができると思います。

—では最後ですけども、130周年に寄せて何かメッセージを。

阪：今回の節目は音楽学部だけに限ることではないので、大学全体で祝えるといいですね。今、現役の学生さんたちは、130年に渡る芸大全体の歴史の流れの中で勉強させてもらっているのです。客観的にみれば、どれもいい本番にしなければいけないことには変わりありませんが、現在の学生さんたちの4年間もしくは6年間は、先生方、OB O Gの方々の130年の積み重ねの上にあります。そして過去に130分の4年だけお世話になった僕も呼んでもらって、一緒に音楽ができることは本当に幸せなことです。何回も呼んでいただいていると、その時のそれぞれの学生さんとの仕事で会うこともあって、「あのときあれ乗ってました！」などと、かならずそういう話になります。そういうのも僕にとっては嬉しい財産です。先生方にも京芸ご出身の方が多くいらして、学生だった頃の昔も知っていて、今のことも知っている先生方。そんな先生方も今度のオペラに入ってくださいとなれば盛り上がるでしょう。だから「学生さんだけにしますか？教員もいれませんか？」と聞かれたときに、「是非入っていただきたいです、その方がみんなでお祝いできますね」と答えました。だから、今回はソロに歌の先生だけでなく、オケにも先生方が入っておられます。

とにかくみんなで盛り上げて、みんなでお祝いしましょう！

—そうですね、学生、教員、卒業生が一丸となって、みんなでお祝いできるよう、真声会も協力したいと思います。

—今日はお時間をとっていただきどうもありがとうございました。阪さんのこれからの益々のご活躍、期待しています。

2009年7月27日、インタビューア：奥田聖子(48期声楽)・中村典子(32期作曲)

切り取り線

京都市立芸術大学音楽学部 第133回定期演奏会

音楽学部同窓会真声会 会員券

2009年12月4日(金) 19時開演(18時開場)
京都コンサートホール大ホール

京芸だより

～定期演奏会をぜひ聴きにいらしてください～

来たる12月4日(金)午後7時より、響/都プロジェクト京芸ルネッサンス2009コンサートシリーズ(文化庁「地域文化芸術振興プラン」)京都市立芸術大学創立130周年記念イベント 京都市立芸術大学音楽学部第133回定期演奏会～市民参加によるベートーヴェン第九コンサート～が京都コンサートホール大ホールにて行われます。

今回の会報に同封してある会員証により、真声会の会員の皆様は無料でご入場いただけます。会場受付にて卒業・修了期、専攻、お名前をお知らせください。また、昨年始まりました会員サービスもございます。会報内に印刷されてある真声会会員券をぜひご利用ください。この会員券は、会員さまご家族、友人知人のご利用が可能です。

皆さまのご来場をこころよりお待ちしております。

京都市立芸術大学創立130周年記念イベント 京都市立芸術大学音楽学部第133回定期演奏会
～市民参加によるベートーヴェン第九コンサート～

(響/都プロジェクト 京芸ルネッサンス2009コンサートシリーズ)

日時: 2009年12月4日(金) 午後7時開演(午後6時開場)
会場: 京都コンサートホール 大ホール
曲目: ワーグナー: 「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より前奏曲
ベートーヴェン: 交響曲第9番「合唱付き」
出演: 指揮: 阪哲朗(レーゲンスブルク歌劇場音楽監督、35期作曲)
独唱: 菅英三子(27期ソプラノ)、三井ツヤ子(16期アルト)
北村敏則(29期テノール)、折江忠道(バリトン)
管弦楽 京都市立芸術大学音楽学部管弦楽団
合唱: 京都市立芸術大学音楽学部合唱団、真声会、京響市民合唱団、本学卒業生及び市民有志
※午後6時15分よりホワイエにて柿沼敏江教授のプレトーク&管・打楽専攻生によるプレコンサートあり
入場料: 1,200円(全席自由)
チケットお申し込み: 京都コンサートホール 075-711-3090
主催: 京都市立芸術大学 文化庁ほか
協力: 京都市立芸術大学音楽教育後援会
問合せ先: 京都市立芸術大学企画広報課075-334-2204

真声会会員の コンクール等 受賞者

- ・2009年度武満徹作曲賞(平成21年5月31日 東京オペラシティコンサートホール・タケミツメモリアル) 第1位
平成11年度作曲専攻卒業 酒井 健治
- ・イタリア国際打楽器コンクール(平成21年9月7日(日)～12日 イタリア・フェルモ)マリンバ部門 第1位
平成18年度打楽器専攻卒業 沓野 勢津子
- ・第1回東京国際声楽コンクール(平成21年9月27日(日) 自由学園明日館講堂) 一般の部第1位 東京都荒川区長
平成9年度声楽専攻卒業 小林 久美子
- ・第10回大阪国際音楽コンクール(平成21年10月10日(日)クリエイトセンターホール)声楽部門 Age-U部門 オペラコース
声楽専攻3回生 泉 萌子
- ・第10回大阪国際音楽コンクール(平成21年10月10日(日)クリエイトセンターホール)
声楽部門 Age-U部門 歌曲コース エスポワール賞 声楽専攻3回生 吉田 早希
- ・第78回日本音楽コンクール(平成21年10月20日 東京オペラシティコンサートホール・タケミツメモリアル)
作曲部門 入選 作曲専攻博士課程1回生 増田 真結

2009年度演奏旅行のお礼とご報告

この度は2009年度京都市立芸術大学音楽学部演奏旅行にご援助くださり、本当にありがとうございました。今年は世間を騒がせている新型インフルエンザによって旅行は中止になってしまい、委員一同、旅行参加者も大変残念な気持ちでいっぱいでした。今では皆、日々の大学生活に立ち戻っています。

旅行中止に、実行委員一同9月26日の西文化会館ウエスティでの京都公演だけでも実現したいという気持ちで本番をむかえました。京都公演は演奏旅行で学んだこと、また演奏旅行でやってきたことを地域の皆様にご披露する演奏会です。地域の皆様の温かいご支援があってこそ、この演奏会も成り立っております。

これ以上感染者を広げないために練習も公演日前日だけでしたが、本当に少ない時間のなか皆集中して取り組んでくれて演奏会も素晴らしいものとなりました。

今年は、「カルメン組曲」と歌劇カルメンを組み合わせ、簡単なストーリー

説明を入れたものに挑戦しました。他にも身近なクラシック曲を取り入れています。また声楽専攻の方々にご協力して頂き、とても華やかなプログラムとなりました。

日ごろ京都芸大を応援してくださっている方々、また地域の方々の皆様のアンケートには、「楽しかった」「〇〇の演奏が良かった」「〇〇の企画がよかった」などたくさんの嬉しい言葉が綴られており、実行委員一同、本当に京都公演が成功に終わって良かったと思っています。

いたらぬ私たちを支えてくださって、本当にありがとうございました。この先もこの演奏旅行はさらに良いものを目指して進んでいきますので、どうぞこれからも変わらぬご理解とご支援の程よろしくお願いたします。

京都市立芸術大学移動公演 2009年度実行委員長
3回生ヴァイオリン 三輪めぐみ

真声会後援の演奏会

【これから開催される演奏会】

♪高田剛志チェロリサイタル(CD発売記念)～J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲シリーズ第1回～

日時: 2009年12月5日(土) 14:00
会場: シャロンゴスペルチャーチ
出演: 高田剛志(38期Vc)、高田真生(Pf)
曲目: J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲第2番、第3番
ブルッフ コル・ニドライ 他

♪竹とナナフシ 杉浦昌美作品演奏会

日時: 2009年12月12日(土) 18:30
会場: 青山音楽記念館バロックザール
出演: 杉浦昌美(48期作) 門田直子(48期Pf) 出口かよ子(48期Fl)
丸山依里(48期声) 他
曲目: 杉浦昌美 さくら(津軽三味線、ピアノ、打楽器)
藪の中の物語(ソプラノと十七絃)
竹の下で生きる(2台のピアノと打楽器) 他

♪ベートーヴェン35のソナタ 多川響子ピアノソナタ完全全曲リサイタル Vol.3

日時: 2009年12月13日(日) 15:00
会場: ザ・フェニックスホール
出演: 多川響子(44期Pf)
曲目: ベートーヴェン ピアノソナタ第2番、第14番「月光」、第9番、第28番

♪内藤裕子ピアノリサイタル ～左手で紡ぐ音楽～

日時: 2009年12月19日(土) 14:00
会場: 京都府民ホールアルティ
出演: 内藤裕子(51期Pf)
曲目: 内藤裕子 左手のためのピアノソナタ
A.N.スクリャービン 左手のための2つの小品Op.9



ショパン 練習曲Op.10-3「別れの曲」他

♪グループWAON(わおん) クリスマスコンサート

日時:2009年12月20日(日)14:00

会場:宝塚ベガホール

出演:奥田聖子(48期声)山本綾(50期Vn)今井彩香(54期Pf)

石原由佳子(48期Pf)他

曲目:リスト スペイン狂詩曲

グリーグ ヴァイオリンソナタ第3番 ハ短調 作品45

ヘンデル「メサイヤ」より シオンの娘よ、大いに喜び 他

♪clumusica クラムジカ第2回公演 逸脱の作法

～弦楽のオルタナティブ～

日時:2009年12月22日(火)18:30

会場:京都芸術センター・フリースペース

出演:永武靖子(49期Hr)木須すみれ(51期Vn)中村公俊(51期Vn)

大西泰徳(49期Vc)三宅恵(54期Vn)福嶋令奈、村上真理菜

上山瑞穂、上菌未織、佐本博子、三輪めぐみ、村上彩、米田舞

吉田円香、西村壮司、赤松美幸、栗辻聡(以上学生)他

曲目:山口友寛(52期作) Cubism(2008/2009改訂初演)

ジョージ・クラム ブラック・エンジェルズ

増田真結(51期作) Twisted Twin(初演)

清水慶彦(48期作) カターブル・エクスキ(初演)

中村典子(32期作) 誰渡洸河(初演)

白乗乗 折れた背骨 -フリーダ・カーロへのオマージュ-(京都初演)

♪JUGIANO ARI&TOSHIE WATANABE JOINT RECITAL

日時:2010年1月17日(日)14:00

会場:高槻市立生涯学習センター2F 多目的ホール

出演:渡部敏恵(25期声)佐々木和佳(34期Pf)他

曲目:S.Barber 「四つの歌」op.13、「三つの歌」op.10

中田喜直 「魚とオレンジ」より はなやぐ朝 他

♪An Evening of Art Songs ～歌曲のタベ～

日時:2010年1月29日(金)19:00

会場:兵庫県芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演:藤美千代(43期Vo)他

曲目:A.ベルク 「7つの初期の歌」他

♪姫野真紀1コインピアノコンサートVol.5

日時:2010年1月30日(土)14:00

会場:学園前ホール

出演:姫野真紀(38期Pf)他

曲目:ショパン 幻想即興曲、スケルツォ第1番

サン・サーンス ワルツ・カプリス 他

♪モナスティルスキーピアノリサイタルwith高木知寿子

日時:2010年2月6日(土)19:00

会場:京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

出演:高木知寿子(27期Pf)ヴァディム・モナスティルスキー

曲目:ショスタコーヴィチ 2台のピアノの為にコンツェルティーン 作品94

メンデルスゾーン 厳格な変奏曲ニ短調

ムソルグスキー 展覧会の絵 他

♪菊本和昭CD発売記念コンサート

日時:2010年2月9日(火)19:00/2月28日(日)14:00

会場:兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール(2/9)

JTアートホールアフィニス(2/28)

出演:菊本和昭(48期Tp)佐竹裕介(52期Pf)

曲目:P.ヒンデミット トランペットとピアノの為にソナタ

Q.ペーメ トランペット協奏曲 ヘ短調 他

♪大内山薫バロックヴァイオリンリサイタル

日時:2010年2月18日(木)19:00

会場:兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演:大内山薫(47期Vn)上田康雄(22期Vc)他

曲目:A.コレリ ソナタOp.5-7

G.P.テレマン ファンタジーより

J.M.ルクレール ソナタ第7番 他

♪Sound Prism舟橋美穂ピアノアンサンブルシリーズVol.10

～10th Anniversary Concert～

日時:2010年2月20日(土)19:00

会場:京都府民ホール アルティ

出演:舟橋美穂(25期Pf)、榎水枝(25期Vo)、森悠子(Vn)

谷本華子(Vn)、山田由美子(Va)、野村朋亨(Vc)

長谷川順子(Cb)

曲目:シューベルト 歌曲「ます」D.550 他

マーラー ピアノ四重奏曲「断章」イ短調

シューベルト ピアノ五重奏曲 イ長調op.114 D.667「ます」

♪三彩音(みゃおん)なはじまり ～フルートトリオコンサート～

日時:2010年2月21日(日)14:00

会場:京都府民ホールアルティ

出演:今井しょうこ(37期Fl)たじまきくこ(37期作)他

曲目:W.A.モーツァルト ソナタB-dur(K.454)

三浦真理 想い出は銀の笛

たじまきくこ 未定

♪Unmarked Music

～Unmarked Singers(アンマーケット・シンガーズ)第6回演奏会～

日時:2010年2月28日(日)14:00

会場:ザ・フェニックスホール

出演:塚本知香(46期声)奥田聖子(48期声)丸山依里(48期声)

丸山晃子(51期声)藤原さおり(46期声)石黒説(46期声)

藤野豊(52期声)沖正樹(4回生)樋口卓哉(4回生)

江戸聖一郎(49期Fl)他

曲目:C.ジャヌカン 鳥の歌

J.S.バッハ モテット「イエス、我が喜びよ」BWV227

A.コーブランド 4つのモテット

J.ラター 音楽の贈り物 他

♪名曲コンサート

日時:2010年2月28日(日)14:00

会場:ムラマツリサイタルホール

出演:江口陽子(51期Vc)木須すみれ(51期Vn)他

曲目:ブルッフ コル・ニドライ

サラサーテ ツィゴイネルワイゼン

♪ベートーヴェン ヴァイオリンとピアノのためのソナタ全曲演奏会(第1回)

日時:2010年2月28日(日)14:00

会場:伊丹アイフォニックホール小ホール

出演:中村愛(41期Pf)他

曲目:ベートーヴェン ヴァイオリンとピアノのためのソナタ第1番

第4番、第9番「クロイツェル」

♪「Bouquet」(関西圏音大出身者によるコンサート)

日時:2010年4月24日(土)19:00

会場:金沢アートホール

出演:橋場香苗(38期Vn)、加藤恵理(37期Pf)、中村俊子(Fl)他

曲目:F.リスト 協奏的大二重奏曲

G.P.テレマン トリオソナタ G-dur 他

【既に開催された演奏会】

♪北村奈美バイオリンリサイタル

日時:2009年9月6日(日)14:00

会場:堺市立勤労者総合福祉センター(サンスクエア堺)

出演:北村奈美(39期Vn)中井由貴子(40期Pf)

曲目:ドヴォルザーク ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ ト長調作品100

サラサーテ チゴイネルワイゼン

フランク ヴァイオリンソナタ イ長調 他

♪ベートーヴェン35のソナタ

多川響子ピアノソナタ完全全曲リサイタルVol.2

日時:2009年9月6日(日)15:00

会場:青山音楽記念館バロックザール

出演:多川響子(44期Pf)

曲目:ベートーヴェン ピアノソナタ第6番、第16番、第17番、第18番

♪京都芸大卒業生によるクラリネットアンサンブル

“クラリネットパフェ vol.8”

日時:2009年9月27日(日)14:00

会場:京都市北文化会館

出演:滝沢誠友(23期Cl)山本有紀(34期Cl)原田美英子(34期Cl)

松田美紀(27期Cl)村上てるみ(33期Cl)原幸子(35期Cl)

田中伊知子(31期Cl)井谷久美子(29期Cl)他

曲目:プーランク Duo

シューマン パピヨン

ラヴェル 亡き王女のためのパヴァーヌ

♪増淵弥生メゾ・ソプラノリサイタル

日時:2009年10月3日(土)15:00

会場:青山音楽記念館バロックザール

出演:増淵弥生(院18期声)木下亜子(40期Pf)

曲目:ドビュッシー 「ピリティスの歌」より パンの笛、髪

ハイドン カンタータ「ナクソス島のアリアドネ」

ヴォルフ「ミニョン」より 話せと言わないで、ただ憧れを知る人だけが

他

♪岡部悦子ピアノリサイタル

日時:2009年10月10日(土)15:00

会場:青山音楽記念館バロックザール

出演:岡部悦子(24期Pf)

曲目:ベートーヴェン ソナタ第14番「月光」

シューマン 3つの幻想小曲集Op.111

ブラームス ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ 他

♪Duo bel Sogno VIOLIN DUO CONCERT

日時:2009年10月11日(日)18:30

会場:青山音楽記念館バロックザール

出演:中村公俊(51期Vn)、中村仁美(Vn)

曲目:イザイ 2つのヴァイオリンのためのソナタ 遺作

プロコフィエフ 2つのヴァイオリンのためのソナタ 作品56

他

♪末岡智子ピアノリサイタル

日時:2009年10月16日(金)19:00

会場:イシハラホール

出演:末岡智子(36期Pf)

曲目:J.S.バッハ パルティータ第5番G-dur BWV829

ショパン 舟歌Op.60、幻想ポロネーズOp.61

シューベルト ピアノソナタ第21番《遺作》

♪岩崎勇先生追悼演奏会

日時:2009年10月17日(土) 15:00
会場:なら100年会館中ホール
出演:蠣崎耕三(28期Ob) 山口博子(26期Ob) 平井好子(25期Ob)
宮本克江(33期Ob) 福田淳(31期Ob) 門田展弥(20期Ob)
岸さやか(42期Ob) 川村颯(29期Ob) 坂田典子(38期Ob)
岡田良機(10期Ob) 中山和彦(24期Ob) 大嶋義実(26期Fl)
中野陽一郎(37期Fg) 樋上由紀(19期Pf) 木田志津加(33期Pf)
他
曲目:門田展弥 ラプソディーオブオーボーズ(委嘱作品)
G.ブッシュ オーボエとファゴットのためのトリオ
A.ロッチェ フルートとオーボエダモーレのためのトリオソナタ
他

♪Duo 'Le vent doux' デュオ・ヴァン・ドゥ

日時:2009年10月22日(木)19:00/10月24日(土)19:00/12月16日(水)
19:00
会場:和歌山県書道記念館 多目的ホール(10/22)
神戸芸術センター シューマンホール(10/24)
MUSICASA(12/16)
出演:雪原典子(25期Pf)、伊藤真貴(Vn) 他
曲目:ラヴェル ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
プーランク ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
ファリャ 7つのスペイン民謡 他

♪村井祐児withアフター・アワーズ・セッション
~ドイツクラリネットの響き~

日時:2009年10月30日(金) 18:30
会場:東梅田教会
出演:右近恭子(25期Pf) 日比浩一(29期Vn) 松原央樹(29期Cl)
ギオルギ・バブアゼ(教員) 他
曲目:モーツァルト クラリネット五重奏曲K.581
メンデルスゾーン コンチェルトシュトゥックOp.114 他

♪小笠原順子ピアノリサイタル

日時:2009年10月31日(土) 18:00
会場:ザ・フェニックスホール
出演:小笠原順子(39期Pf)
曲目:ベルタ ソナタNo.1
シューマン 森の情景
メシアン 「鳥の小スケッチ」より 歌うつぐみ 他

♪真声会関東支部第14回定期演奏会

日時:2009年10月31日(土) 14:00
会場:新宿文化センター小ホール
出演:熊谷房子(1期声) 川口則子(1期声) 小出八重子(4期声)
小林和子(4期声) 秋山喜久子(5期声) 島津与外次(5期声)
杉野昌子(6期声) 加藤アオイ(16期Pf) 青谷哲也(15期声)
斎川永子(21期Pf) 曾我尚江(2期Pf) 田中由実子(27期Vn)
丸山慶子(30期Pf) 文野真理(30期声) 成島いずみ(30期声)
山崎一美(31期声) 奥田章子(32期Pf) 高橋知子(32期Pf)
高橋律子(34期Pf) 辻有里子(48期Pf)
曲目:中田喜直 サルビア
ヴァッカイ 歌劇「ロメオとジュリエット」より~?ああ、御身は眠る~
プロコフィエフ ピアノソナタ第7番 変口長調Op.83より 第1・3楽章
メシアン 前奏曲集より
クーブラン 恋のうぐいす 他

♪ピアノデュオの魅力Vol.3 ~ブラームスはお好き?~

日時:2009年11月1日(日) 15:00
会場:青山音楽記念館バロックザール
出演:蜂谷葉子(29期Pf) 大岡真紀子(29期Pf)
曲目:ブラームス ハンガリー舞曲集(全21曲)
大学祝典序曲 他

♪チェンバーコンサート2009

日時:2009年11月11日(水) 19:00
会場:青山音楽記念館バロックザール
出演:井尻和喜(50期Vn) 波多野聖子(50期Pf) 石塚俊(54期Vc)
曲目:ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第5番 作品24「春」
ショパン アンダンテ・スピナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22
メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲第1番 作品49 他

♪豊住征子リサイタル

日時:2009年11月12日(木) 19:00
会場:京都府立府民ホール アルティ
出演:豊住征子(11期声)、イェルク・デームス
曲目:モーツァルト 歓喜に寄す、静けさはほほえみつつ、すみれ
シューマン ローレライ、ズライカの歌、私のバラ、雪の花 他

♪日比浩一×日野俊介 ヴァイオリンとチェロで奏でる二人展

日時:2009年11月19日(木) 19:00
会場:兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演:日比浩一(29期Vn) 日野俊介(29期Vc)
曲目:J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリン パルティータ第3番より「プレリュード」
J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲第1番より「プレリュード」
ラヴェル ヴァイオリンとチェロのためのソナタ 他

♪谷千鶴ピアノリサイタル ~妙なる調べを求めて~

日時:2009年11月19日(木) 19:00
会場:京都府民ホール アルティ
出演:谷千鶴(27期Pf)
曲目:モーツァルト 幻想曲 KV397 ニ短調
ショパン スケルツォ第4番
シューベルト ソナタ第21番 変口長調 他

♪坪内久美子ピアノリサイタル

日時:2009年11月19日(木) 19:00
会場:いずみホール
出演:坪内久美子(43期Pf)
曲目:ハイドン ピアノソナタ第23番 ヘ長調
ベートーヴェン ピアノソナタ第23番 ヘ短調
リスト 巡礼の年第2年イタリアより 他

♪兵庫県立西宮高校音楽科卒業生による ジョイント・リサイタル

日時:2009年11月20日(金) 18:30
会場:西宮市プレラホール
出演:喜多ちひろ(53期Vn) 安田法子(53期打) 杉田美穂(52期Pf) 他
曲目:リスト ハンガリー狂詩曲第12番 嬰ハ短調
ラヴェル ツィガーヌ
コベツキ CANNED HEAT For Multiple Percussion 他

♪松室華子ソプラノリサイタル

日時:2009年11月22日(日) 14:00
会場:青山音楽記念館バロックザール
出演:松室華子(41期声) 他
曲目:リスト おお、私がまどろむ時
R.シュトラウス 君は私の心の冠
中田喜直 髪 他

♪歌の宝石箱

~高須礼子先生京都市立芸術大学退任を記念して~コンサートREI Vol. 7
日時:2009年11月26日(木) 18:30
会場:兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
出演:高須礼子、落合庸平(院2回生声) 坂口裕子(院19期声)
柴木千恵子(18期声) 清水由希子(46期声) 清水徹太郎(47期声)
進元一美(47期声) 田中奈津美(53期声) 寺田純子(23期声)
林香世(32期声) 馬場涼子(54期声) 町田百々子(27期声)
松岡万希(45期声) 山守美由紀(48期声)

♪Fabien reich Musik konzert ~クラリネット・ヴィオラ・ピアノによる~

日時:2009年11月26日(木) 18:30
会場:東梅田教会
出演:高尾真理恵(48期Vn) 他
曲目:クラーク 前奏曲、アレグロと牧歌より
ブルッフ 8つの小品Op.83より
ショーソン アンダンテとアレグロ 他

※演奏会の真声会後援および会報掲載は会費納入者のみとさせて頂いております。どうぞご了承ください。

真声会からのお知らせ

役員人事について

真声会副会長、運営委員長の 大谷正和さん(32期Pf)は、体調不良のため、9月1日をもって辞任されました。後任人事につきましては、10月6日に理事会が開かれ、新運営委員長に佐々木研さん(10期打)(現副会長、編集委員長を兼任)、新副会長に松本真理子さん(15期打)(現理事)が選出され、承認されました。また、編集委員補佐として、11月より村辺恵奈さん(53期声)が会長により任命され、新体制がスタートしています。

名簿について

住所変更等ありましたら、真声会本部までご連絡ください。

お詫び

前号の中で、植田治男さま、村上哲さま、井上隆平さまの文章に一部誤植がありました。正しい全文を同封しております。みなさまにはご迷惑をおかけいたしました。ここにお詫び申し上げます。

訃報

旭貴美子さま(7期Vn)が、6月下旬ご逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。



暖かい10月が終わり、11月に入った途端急に寒くなりました。いよいよ、底冷えの寒い冷たい京都の冬がやってきます。春から新型インフルエンザが話題ですが、こちらはいよいよ流行真っ盛りの季節に突入します。マスクが騒ぐ度に店頭からマスクが消えていたのに、最近ではドラッグストアにマスクが山積みになっているのを見かけます。世間はこんなにもマスクに踊らされている…。おそろしいのはこれからだよ?とひとり危機感を募らせている今日この頃です。
京芸130周年のイベントが、第九を皮切りにいよいよスタートします。在学生、卒業生、市民まで巻き込んでのお祝い、お祭りが、京芸の未来にとって充実した意味のあるものとなりますように、祈っています。(O)